

# 大学の国際化 最前線

## 実務経験豊富な教員と共に 東アジアの玄関口で学ぶ

新潟県立大学大学院  
国際地域学研究科

### 国際政治・国際経済など多分野に対応

1963年、新潟市に県立新潟女子短期大学が開校した。家政科、幼児教育科及び英文科に次いで、日本海を挟んで中国、ロシア、韓国と向かい合う「東アジア交流圏の玄関口」である新潟の地理的条件を生かし、国際関係の教育・研究を行うため、93年に国際教養学科を開設。同学科は同短期大学が共学の新潟県立大学として生まれ変わった2009年に、英文科、生活科学科の一部とともに改組されて国際地域学部となり、15年に大学院国際地域学研究科が新設された。

同研究科は政治・経済など広い視野で国際関係を理解し、多言語

によるコミュニケーション能力を備えた、世界に通用する人材を育てることを目指している。このため多様な専門分野、バックグラウンドを持つ優れた教授陣が揃う。例えば国際開発政策などの授業を担当する伊藤晋研究科長は、国際協力機構（JICA）の職員としてフィリピンやケニアへの赴任経験があり、多くのODA事業に携わってきた。

カリキュラムには、「国際社会」「地域国際関係」「地域（各国）研究」の3つの科目群がある。国際社会の科目群では国際政治・国際経済・国際ビジネスなどを一挙に学ぶことができ、幅広い研究分野の学生に対応できるようにしている。「地域研究では東アジアなどを重視する一方、新

潟の企業や自治体を持つローカルな技術・知見を国際協力に生かす『グローバル』な視点で行う授業もあります」と伊藤研究科長は語る。

### 研究発表会には教員が全員参加

授業の多くは英語で行われ、英語のみで修士号を取得することも可能だ。そのため日本人学生が「留学生と学びたい」とのモチベーションから英語での授業を受けることも多い。留学生については、コロナ禍で日本に再入国できない

学生にオンラインで指導を続けている。

このほか、院生共同研究室と教員の研究室が近く、互いの交流が活発なもの同研究科の利点。「年に数回の研究発表会では研究科の

全教員が出席して、指導担当でない学生にもきめ細かなアドバイスを行っています。国際協力の現場では、論文に書いてあることをそのまま生かせない場合もあり、現場を知る教員のアドバイスが助けになるでしょう」と伊藤研究科長。

社会人学生にも配慮しており、秋入学制度を設けているほか、平日の18時以降や土曜日に授業を開講したり、2年分の授業料で3年間に在籍できる「長期履修制度」を設けたりしている。さらに、学部在籍時に申請して大学院の一部の授業を受けることで、大学院を最短1年で修了できる学内進学者向けの制度もある。さまざまな学生のキャリア形成のニーズに応えられる制度を整えており、県外からの受験生も多い。



院生同士の交流からも新たな視点を得られる環境